

成育だより

NCCHD
News Letter
2025 Autumn

Vol.44

National Center for Child Health and Development

<https://www.ncchd.go.jp>



特集
無痛分娩

ICWH 女性の健康研究開発部門 / ICWH 女性免疫バイオメディカル研究室 / ICWH 妊娠糖尿病ってなあに？

栄養管理部 / エコチル調査研究部 / 臨床研究センター / 専門職のご紹介(産科麻酔科医/助産師)

ホスピタル・ファシリテッドッグ®・マサ / ご寄付のお礼 / History / Information



出産の方法にはいくつかありますが、いま注目されているのが「無痛分娩」です。

今年の秋から東京都が費用の一部を助成することが発表され「気になっている」という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

日本での無痛分娩の実施率は1割程度（2024年）で、欧米諸国（約8割）と比較すると低い水準です。しかし、妊娠・出産・育児を見据えた女性のライフスタイルに寄り添う選択肢の一つとして、今後さらに需要が高まると考えられます。

お産のときには、赤ちゃんを生み出すために規則的な子宮の収縮、いわゆる「陣痛」が起こります。痛みの感じ方には個人差がありますが、日常生活で経験する怪我よりも遥かに強いといわれています。この陣痛の痛みを和らげる方法のひとつが「無痛分娩」です。施設によって方法はさまざまですが、主に背中から麻酔を投与する「硬膜外麻酔」という方法で痛みを和らげます。

実際に無痛分娩で出産をされた方からは、「お腹が張っているのは分かるけれど、リラックスして過ごせた」「痛みがなく、冷静にいきんで産むことができた」「赤ちゃんを迎える喜びの時間をより多く感じられた」といった声が聞かれます。痛みの少ないお産は、母親の心身のストレスを軽減するだけでなく、赤ちゃんにも良い影響を与えることが研究でも分かっています。

一方で、麻酔によってまれに合併症が生じることもあります。そのため、無痛分娩を検討するときは医療設備やスタッフの体制が十分に整っているかなど、事前に確認しましょう。

当センターでは、産科医・助産師・新生児科医、そして麻酔科医がチームを組み、妊婦さんと赤ちゃんに寄り添った無痛分娩を行っています。普段は手術室にいる麻酔科医が産科病棟に常駐し、緊急時にも迅速に対応できる体制を整えているため、お母さんと赤ちゃんの安全性を高めています。

出産は、未来をつくる大切な出来事です。無痛分娩も選択肢のひとつとして、多くの方に知っていただき、すべての妊産婦さんが幸せで安全なお産を叶えられるよう、私たちもチームでサポートしてまいります。



Ohara Reiko
大原 玲子

周産期・母性診療センター
産科麻酔科 診療部長
好きな食べ物：しろくま（かき氷）

無痛分娩の流れ

1. 陣痛中：麻酔を始めるための診察

- ・陣痛が強くなってきたら、妊婦さんの希望を大切にしながら進めます。「少し早めかな?」と思っても大丈夫。遠慮せずに伝えてください。
- ・医師・助産師が赤ちゃんとお母さんの状態を診察し、安全と判断したら麻酔を始めます。



2. 麻酔：背中から麻酔を入れます

- ・横向きに寝て、背中を丸めて準備します。
- ・背中にごく細い針で局所麻酔をします(チクツとします)
- ・次に麻酔針を通しカテーテル(細い管)を背中に入れていきます。
- ・カテーテルから薬が入ると、20～30分ほどで痛みが和らげられます。



3. 分娩中：お産の進みと痛みを見守ります

- ・赤ちゃんとお母さんの状態をモニターで常に見守ります。
- ・途中で痛みが強くなったら、薬を追加して調整できます。
- ・痛みを和らげた状態で分娩を行います。
- ・お産の進み方や、妊婦さん・赤ちゃんの状態によっては帝王切開へ切り替わることもあります。



4. 出産後：麻酔を止めます

- ・出産が終わったら麻酔薬を止め、カテーテルを抜きます。
- ・麻酔の効果は徐々に切れて、数時間で自然に消えていきます。



産科麻酔科について

産科麻酔専門の医師が24時間体制で、無痛分娩・帝王切開・胎児治療に対応します。米国産科麻酔学・周産期学会の厳しい基準をクリアし、卓越したレベルの産科麻酔を提供する施設として認定され、安全性と満足度の高い医療を提供します。

無痛分娩についてのページはこちらをご覧ください。

<https://www.ncchd.go.jp/hospital/pregnancy/bunben/mutsu.html>



無痛分娩のメリットとリスク

無痛分娩は、お母さんにも赤ちゃんにも多くのメリットがあります。
主なメリットをいくつかご紹介します。

メリット

- お産の痛みやストレスが少なく、産後の赤ちゃんとの対面も落ち着いてできる
- 強い痛みで胎盤の血流が低下することを防ぎ、赤ちゃんへの酸素の供給が安定しやすい
- 痛みを感じにくいので、必要な処置(会陰切開・吸引分娩など)を迅速に行うことができる
- カテーテルが入っているので、帝王切開が必要になった時に、麻酔を追加してスムーズに切り替えることができる
- 体力の消耗が軽減されるため、産後の回復が早い

リスク・注意点

- まれに合併症・副作用(頭痛・かゆみ・発熱・アナフィラキシーなど)が起こる
- 分娩が長引いた場合に、子宮収縮剤が必要になることがある
- 血液や背骨の病気があると麻酔できない場合がある

東京都助成金について

東京都では条件を満たした都民の方を対象に、無痛分娩でかかった費用(最大10万円)を助成する事業が始まっています。対象は、2025年10月1日以降に出産した方。当センターでの無痛分娩も、この助成の対象となっています。事業の詳細や申請方法は、東京都福祉局・無痛分娩費用の助成のページをご覧ください。

東京都福祉局 無痛分娩費用の助成

<https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/kodomo/shussan/mutsubunben/subsidy>



女性免疫バイオメディカル研究室

妊娠・出産は女性や家族にとって人生の中でも大きな節目のひとつです。赤ちゃんはお母さんの子宮の中で、羊水に包まれてすくすくと成長しますが、その成長を支えるのが「胎盤」です。私たちの研究室では、お産が終えたお母さんたちから貴重な胎盤をお譲りいただき、その働きや受けるダメージの仕組みを研究しています。



胎盤は赤ちゃん由来の器官で、**お父さんとお母さんの両方の遺伝子**をもっている特別な存在なのに、**お母さんの体からは拒絶されずに妊娠を続けられる**という、不思議でユニークな特徴を持っています。さらに酸素や栄養を届けるだけでなく、感染や薬の影響から赤ちゃんを守ったり、お母さんの体を妊娠に適した状態に整えたりと、多彩な働きを担っています。胎盤がなんらかの要因でダメージを受けてしまうと、妊婦さん、赤ちゃんのさまざまな病気の原因となってしまうと言われていますが、その原因はまだ十分に解明されていない部分が多いのが現状です。そんな**胎盤の不思議**を解き明かすために、私たちは次のような研究を進めています。

主な研究内容

●胎盤へのダメージと妊娠合併症の関係を調べる

胎盤へのダメージが妊娠合併症の原因になることがあります。ダメージを受けるとなぜ妊娠合併症を引き起こすのか、その仕組みを調べます。

●胎盤の性差を研究する

胎盤は赤ちゃん由来の器官なので、男の子と女の子では少し違いがあると考えられています。この違いが妊娠や合併症にどう関わるかを研究しています。



Kenichiro Motomura

本村 健一郎

女性免疫バイオメディカル
研究室長

好きな食べ物：お寿司

こうした研究を通じて妊娠合併症の新しい予防や治療につなげることを目指しています。これからも胎盤という「命をつなぐ器官」の解明を通じて、未来の女性と家族の健康に貢献していきます。

女性の健康研究開発部門

女性の健康総合センター(ICWH)では、「女性医学」や「性差医学」の観点から女性の生涯にわたる健康を支えるために研究活動を進め、新たなエビデンスを創出することを大きな柱の一つとしています。これらの研究を進めることで、女性の健康に関するさまざまな課題の解決に取り組んでいきます。



「女性医学」や「性差医学」と言われても、どんなもの？と思いますよね。

「女性医学」は、女性特有の健康問題や病気を中心に、女性の身体や心の変化、思春期・更年期といったライフステージごとに必要となる医療に合わせた研究を行います。たとえば生理、妊娠、出産、などに焦点を当てます。

それに対し「性差医学」は、男女の間にある身体や機能の違いが健康や病気にどのような影響を与えるかを研究します。例えば、男女では分泌されるホルモンに違いがありますが、この違いが病気の発症、進行、治療にどのように関連しているかを調べていきます。

女性には、月経・妊娠・出産といった女性特有のライフイベントがあり、それぞれの時期で体や心にさまざまな変化が生まれます。また、同じ病気でも男女で症状や経過が違ふことがあります。

「性差」をふまえた研究を進めることで女性に合わせた医療を提供することが必要です。

ICWHでは、「女性医学」と「性差医学」を組み合わせ、次の9つの研究室で基礎研究から臨床研究まで幅広く取り組んでいます。さらに、外部の企業やアカデミアとの連携を進めるオープンイノベーションセンターを通して、研究成果を社会に生かしていきます。

「9つの研究室」

女性の健康推進研究室、女性のライフコース疫学研究室、ヘルスイノベーションクス研究室、先端医用工学室、女性免疫バイオメディカル研究室、女性内分泌学研究室、女性生殖医学研究室、女性のライフスタイル制御研究室

次のページでは、女性免疫バイオメディカル研究室の研究内容をお伝えします。



ウェイト外来のご案内

「肥満」は妊娠糖尿病の発症リスクの一つです。妊娠前の体重管理は、将来の妊娠や出産に備える上でもとても大切です。当センターでは、将来妊娠を考えている方や産後の体重管理にお悩みの方向に向けて「ウェイト外来」を開設しています。ここでは、管理栄養士による食事のサポートに加え、GLP-1受容体作動薬やGIP/GLP-1受容体作動薬といった治療を保険診療の範囲内で受けていただけます(※)。将来の妊娠を見据えて、今できることから一緒に始めてみませんか？

※妊娠・授乳中は使用できません。保険診療の対象となるのは、高血圧、脂質異常症または2型糖尿病をもつBMIが35kg/m²以上の方、あるいはBMIが27kg/m²以上で、2つ以上の肥満に関連する健康障害がある方です。



妊娠糖尿病ってなあに？

妊娠中、「血糖値が高めですね」と言われて不安になったことはありませんか？妊娠糖尿病とは、妊娠中に発症する軽度の糖代謝の異常のことです。妊婦さんの約10%にみられ、多くの女性が経験しています。

主に妊娠中期から後期にかけて、ホルモンの影響で血糖値が上がりやすくなります。赤ちゃんに必要な栄養を届けるための変化ではあるものの、血糖値が高くなりすぎると、赤ちゃんが大きく育ちすぎたり、分娩や出産後の赤ちゃんの体調に影響を与えることもあります。また、お母さん自身の高血圧や難産のリスクも高まります。

妊娠糖尿病と診断された場合は、まず食事を見直しましょう。栄養バランスを整え、適切なエネルギー量を守ることが大切です。甘いものを完全にやめなければならぬ、というわけではなく、何を・

どのくらい・どんなふうに食べるかがポイントです。妊娠糖尿病と向き合うことは、将来の糖尿病予防にもつながります。

当センターでは、医師だけでなく、看護師、管理栄養士、薬剤師など多職種がチームとなって、妊婦さん一人一人に合ったケアを提供しています。不安なことや分からないことがあれば、どんな小さなことでも遠慮なくご相談ください。私たちは、赤ちゃんとお母さんの毎日に寄り添い、安心して過ごすことができるよう支えていきます。



女性内科のご案内

女性のライフステージごとの健康課題に対応し、総合的かつ専門的な内科診療を提供しています。妊娠・出産に関連する内科的な疾患に力をいれています。必要に応じて産科、小児科、関連診療科と連携し、切れ目のないケアを実践します。

—対象疾患—

糖尿病、甲状腺疾患、肥満症、脂質異常症、高血圧、気管支喘息、免疫の関与する不妊・不育症、慢性腎臓病、ワクチンで予防できる疾患(Vaccine Preventable Diseases)など



Akiko Sankoda

三小田 亜希子

女性の健康総合センター

女性内科

好きな食べ物：ぶどう



妊娠糖尿病と診断されたら 食生活改善の4つのポイント

妊婦さんの約10%に見られるといわれる妊娠糖尿病。血糖値を上がりにくくするためには、日々の食事を意識することがとても大切です。食生活改善のために大切な4つのポイントをご紹介します。



POINT

① 毎食バランスよく食べる！

食事の基本は1日3食を、欠かさずに取ることです。主食（ごはん・パン・麺など）、主菜（肉、魚、卵、大豆製品）、副菜（野菜）をバランス良く組み合わせるようにしましょう。

注意したい食べ方

血糖値が上がりやすい

ふりかけおにぎり
×
お茶

トースト・菓子パン
×
紅茶

かけうどん

栄養が偏ってしまう

肉や魚だけ

野菜だけ



POINT

② 食事の時間は規則正しく！

食事と食事の間隔が短かったり長かったりすると、血糖値のコントロールが難しくなります。1日3食の場合は、「朝7時、昼12時、夜19時」といったように、できるだけ一定の時間に食べるようにしましょう。

それでも食後の血糖値が高い場合は、1日の食事を6回に分けて食べることがあります。例えば下の図のような時間割で、朝屋タ3食のごはんやパンなどの主食量を半分にして、主菜と副菜は1日3回の食事にとりま

す。間食ではお菓子を食べるのではなく、先ほどの食事とするはずだった半量の主食や牛乳、少量の果物などを選びましょう。菓子パンやお菓子のような甘いものは血糖値が上がりやすいため避けましょう。

1日の血糖の変動(3食+間食3回)



朝7時



昼12時



夜19時



POINT

③ 食物繊維の多い食品を取る！

食物繊維を多く含む食品を毎回の食事に取り入れましょう。例えば白いごはんを麦ごはん、食パンはライ麦パンに置き換えるのをおすすめです。さらにごぼうや葉物野菜、きのこ、海藻、切り干し大根やひじきなども積極的に取り入れましょう。お通じの改善にも効果的です。



POINT

④ 食べ方の工夫を！

野菜から食べ始める「ベジファースト」を意識しましょう。副菜↓主菜↓主食の順に食べると、血糖値の上昇が緩やかになります。

妊娠中に必要な食事量(エネルギー量)は、妊娠週数や体格によって異なります。血糖値が高いと言われたら、栄養食事指導を受けましょう。当センターの場合、食生活や体調管理についての不安に寄り添い、一緒にサポートしています。



妊婦さん・授乳中の方と治験 新しいルールづくり

治験は、新しい薬の効果や安全性を実際の医療の中で確かめる大切な機会です。これまで妊婦さんや授乳中の方は、安全性への不安から治験の対象外になることが多く、そのため薬が承認された後も十分な情報がなく、治療の現場での判断や、必要な治療にかかるまでに課題がありました。

そこで国際的な機関である「国際医薬規制調和会議（ICH）」が「妊娠中や授乳中の方を臨床試験に含めること」をテーマにしたE21ガイドライン案を公開しました。科学的な根拠をもとにリスクと利益を慎重に検討し、安全性を確保しながら参加を可能にすることを目指しています。母子の健康を守りつつ、新しい薬の情報を集め、妊婦さんや授乳中の方にも安心できる治療の選択肢を広げていくことが期待されています。当センターは今後も、国際的な議論に関わりながら、妊娠・出産・子育てにかかわる方々へ最適な医療を届けるために取り組んでまいります。

Kotone Matsuyama
松山 琴音
臨床研究センター長



このように、調査では有害な影響があるかどうかだけではなく、それを和らげる可能性のある要因も含めて調べたいです。これからも、環境と子どもの成長・発達や健康との関連を調査することで、妊婦さんや妊娠を考えている方々にとって役立つ情報を提供していきたいと考えています。

エコチル調査の詳しい結果を知りたい方は、右ページ下のQRコードからご覧ください。

妊婦さんの血液中の重金属の濃度を詳しく調べたところ、ほとんどの人が国際的に安全とされる濃度であることが分かりました。しかし、安全な濃度であっても重金属濃度が高くなるにつれて、生まれた赤ちゃんの体重がわずかに小さくなる傾向が見られました。さらに、農林水産省の「食事バランスガイド」に近いバランスのよい食事をとっている妊婦さんは、重金属の影響が緩和されることも分かりました。

私たちが用いている「出生コホート研究」という手法は、妊娠中から妊婦さんに協力してもらい、食事や住環境などの情報と、生まれたお子さんの成長や病気との関係を何年にも渡って記録・分析する方法です。多くの方に参加いただくことで、環境と健康のつながりを明らかにすることが出来ます。

エコチル調査研究部は、環境省が行っている「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の一員として、妊娠中から出産後までに妊婦さんがおかれた環境と生まれた子どもの発達・健康にどのような関係があるのかを研究しています。



Hidetoshi Mezawa
目澤 秀俊

行動発達系計測研究プロジェクト
チームリーダー
好きな食べ物：インドカレー



環境省エコチル調査ホームページ
<https://www.env.go.jp/chemi/ceh/>

エコチル調査 検索
QRコードからもアクセスできます→



助産師の仕事って、どんなイメージをお持ちですか？

「赤ちゃんを取り上げる人」と思う方も多いかもしれません。でも実際には、妊娠中から出産、そして産後の育児のスタートまで、母子を支える大切な役割を担っています。当センターには約120名の助産師がいて、昼夜交代で日々母子の健康を見守っています。

お産にはいくつかの方法がありますが、最近よく耳にするのが「無痛分娩」ではないでしょうか。当センターでは経膣分娩の約8割（年間1,000件前後）が無痛分娩です。

無痛分娩では痛みにとらわれることなく、ご家族と穏やかな時間を一緒に過ごしながら、赤ちゃんを迎えることができます。上のお子さんが立ち会うお産では「ママがんばれ！」「赤ちゃんかわいね」と声をかけ、ご家族みんなで赤ちゃんの誕生を喜び合う光景に立ち会えるのは、助産師としてとても嬉しい瞬間です。お産は一つ一つ違い、その人に合わせたケアが必要です。難しさもありますが医師や仲間と力を合わせ、妊婦さんと分娩を進められたときには、何より大きなやりがいを感じます。



Rin Maeda
前田 凜
MFICU
副看護師長
好きな食べ物：焼肉（タンとハラミ）



産科麻酔科医は、妊娠中から分娩・産後までの産科診療に特化した麻酔科医です。妊娠や出産、それに伴う体の変化、産科特有の病態についての専門的な知識と麻酔の技術を持った専門の麻酔科医として、帝王切開や無痛分娩、妊娠中の手術・胎児治療の麻酔、産後の急変などに対応しています。

当センターでは無痛分娩をご希望される方がたくさんいらっしゃいます。赤ちゃんを迎えることを楽しみにされる一方で、出産の痛みについて不安や恐怖心を持っている方もいます。私たちは無痛分娩の麻酔で、産婦さんの不安を和らげ、母子にとって安全で快適なお産を目指しています。

無痛分娩をご希望の方は、事前に麻酔の説明動画を視聴いただき、その上で麻酔科外来を受診していただいています。安全に麻酔ができるように事前評価をすることに加えて、産婦さんの麻酔に関する疑問点や不安を解消できるように努めています。

無痛分娩中は、定期的に痛みの具合や麻酔の効き、お産の進行を見ながら、麻酔を調整しています。安全にお産ができるように、助産師と産科医師とともに産婦さんをサポートしています。

当センターでは、5名の産科麻酔科医が中心となり、交代で24時間365日体制で無痛分娩に対応しています。無痛分娩でお産の痛みが軽減され、穏やかな雰囲気赤ちゃんを迎える瞬間に立ち会えるのは、産科麻酔科医の仕事の喜びの一つです。今後も産科医師・助産師と共にチームの一員として、母子の安全に貢献できればと思っています。

Arisa Ijyuin
伊集院 亜梨紗
麻酔科／産科麻酔科
好きな食べ物：チーズ

おしえて！ハンドラーさん！

当センターで患者さんをサポートしているホスピタル・ファシリティドッグ®のマサ。「マサはいつもどんなお仕事をしているの？」と聞かれることも。そんな素朴な疑問に、マサのハンドラーである権守さんに答えてもらいました！

Q. マサはどんなことができるの？

A. ハンドラーがマサに出す指示の事をキューと言います。マサはだいたい100個のキューを覚えていて、その通りに動けます。基本的なsit（座れ）、stay（待て）、touch（タッチ）、turn（回れ）などから、ちょっと面白いものでfind it（探して）があります。これは、子どもたちが隠したおもちゃをマサがを見つけ出す遊びの時に使うキューです。

Ayami Gonnokami

権守 礼美

ハンドラー・小児看護専門看護師
好きな食べ物：お刺身



BYE BYE



DOMO



好きな遊びはボール遊び



Hospital Facility Dog Masa

マサ

犬種：ラブラドル・レトリバー
誕生日：2019年3月7日生まれ

ホスピタル・ファシリティドッグ®は認定NPO法人シャイン・オン・キッズの登録商標です

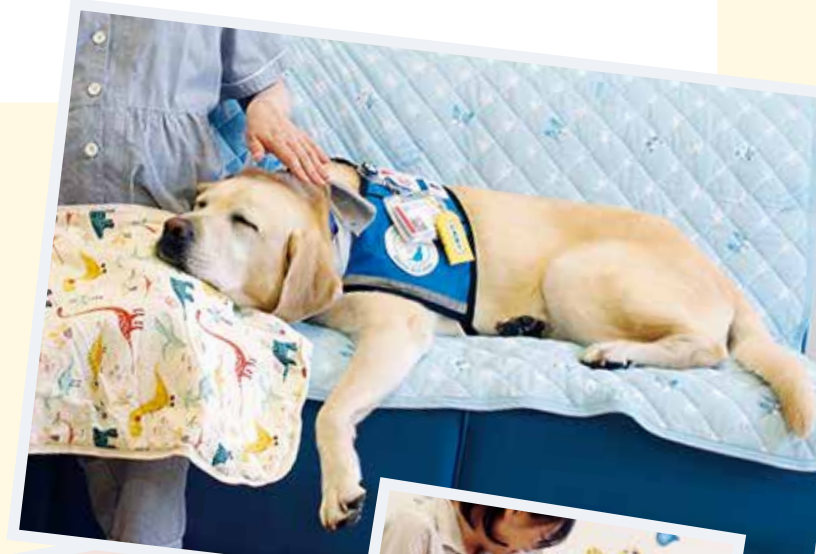
日本では、平安時代から妊娠5か月の戌の日に腹帯を巻き、健やかな出産を願う習慣があります。

マサは毎月戌の日に合わせて産科病棟を訪問し、胎児の病気や妊婦さんの合併症などで長期入院されている方の心のケアを行っています。マサを見ると「わぁ！」と表情がほころび、緊張がとける妊婦さんも少なくありません。

妊婦さんの膝に頭をのせ、静かに撫でられるマサはとても気持ちよさそう。時にはお腹に鼻を寄せ、まるで赤ちゃんと会話しているかのような仕草を見せることも。

マサと触れ合った妊婦さんからは「長期入院のストレスがあったけれど、マサに癒されました」といったお声もいただきます。ハンドラーや看護師にとっても、マサと妊婦さんが心を通わせる様子は、動物介在療法の大きな力を実感できる瞬間です。

戌の日のひととき
マサと一緒に



国立成育医療研究センターは、たくさんの方々のご寄付によって支えられています。皆さまのお心遣いに、心より感謝申し上げます。2024年度・下半期(10月～3月)にご寄付いただいた、法人・個人の方々のお名前を紹介させていただきます。お名前は掲載を承諾していただいた方のみ、五十音順に掲載しております。

団体/法人(敬称略)

Ensemble espoir(代表 瀧江美加)	一般社団法人OSAKAあかるクラブ
一般財団法人mudef	一般社団法人みんなのレモネードの会
SMBC日興証券株式会社	学校法人ザベリオ学園 ザベリオ学園こども園
株式会社Verde	株式会社セント・フォース/ランドポート株式会社
株式会社メディカルインキュベーションシステム	産婦人科オンライン・小児科オンライン(株式会社Kids Public)
宗教法人 井口院	千葉骨髓バンク推進連絡会 西島 一恵
月野木 隆/大蔵剣道倶楽部	TKアシスタントサービス合同会社
BACK HOME project	Ridgeline株式会社

個人(敬称略)

阿久津 弘子・	SKベイント(株) 代表取締役	齋藤 国雄	柘植 太郎	三澤 雄一郎
綱島 直輝	稲田 秀一	佐伯 禎子	坪井	水澤 実咲
浅見 きぬ江	大畑 雅子	坂上 美弥香	内藤 長生	三宅 和宣
安保 謙一郎	小倉 研太	下田 公陽	永井 杏奈	宮下 優佳子
荒井 正道	勝山 晃	白岩 修	永井 尚美	森田 祐子
家田 俊也	(株)ZN商会 代表取締役社長	白岩 悠登	中西 秀充	矢吹 真菜
石井 佑貴	中村 瑞一	新谷 直樹	中村 佳明	山岡 光子
磯和 仁志	菊池 美樹	菅原 日紀	中森 立子	吉岡 真紀子
一木 雄一	木埜山 康子	鈴木 秀一・ちひろ	西村 俊明	吉澤 孝昭
伊藤 裕美	木本 絵美子	大中 悠司	如意 仁詞	吉田 早江子
稲毛 直行	呉 佳穎	(ダイナカテック)	羽田 洋平	脇保 修司
井上 清志	小磯 光琉	高木 翔一	平井 経博	和田 康博
今井 俊哉	五嶋 翼	武田 英敬	廣川 麻衣	渡辺 徳人
岩永 良児	後藤 遷也	田中 雅秀	細川 知宏	渡邊 葉子
宇仁 裕美子	湖山 泰成	千葉 新		



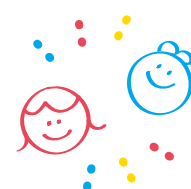
手術支援ロボット
「ダビンチ(da Vinci)」



Donation Project



寄付プロジェクト



小児専門病院としては全国初！ 手術支援ロボットを導入しました。

当センターでは、左記の阿久津さまをはじめ皆さまからの温かいご寄付と国のご支援により、手術支援ロボット「ダビンチ(da Vinci)」を導入しました。全国の小児専門医療機関としては初めての導入です。

ダビンチは精緻な操作が可能で、安全かつ体への負担が少ない手術を可能にします。今後は婦人科手術や小児外科、臓器移植など、成育医療の先端分野で広く活用してまいります。

当センターはこれからも、すべての子どもとご家族の健康と未来のため、最先端医療の実現に努めてまいります。あらためて、阿久津さまをはじめ皆さまのご支援に心より感謝申し上げます。



HISTORY

of the National Center
for Child Health and Development

東京第二衛戍病院として創設
(明治32年3月)

The Second Tokyo Medical
Hospital is established.

1899

国立世田谷病院を廃止して
国立小児病院として発足
(昭和40年4月)

The National Setagaya hospital is
abolished and become the
National Children's Hospital.

1965



国立成育医療研究センターの前身である「国立小児病院」は、日本で初めての小児専門病院として1965年に発足、今年で60周年の節目を迎えます。子どもの医療の発展に大きく寄与し、研究や教育の分野でも日本をリードしてきました。一方、現在センターがある場所には、今から80年前に「国立大蔵病院」が発足し、長年にわたり地域医療を支えてきました。

2002年に両病院が統合し、「国立成育医療研究センター」として新たな歩みを始めました。現在は研究所・病院・臨床研究センター・女性の健康総合センターが連携し、妊娠や出産、小児から思春期、成人期、さらに生涯にわたる女性の健康までを幅広く支え、未来へとつなげています。



もみじの家開設
(平成28年4月)

The Momiji House
is established.

2004



女性の健康
総合センター開所
(令和6年10月)

Integrated Center for
Women's Health: ICWH
is established.

2016

2024

1945

厚生省に移管
国立世田谷病院と国立大蔵病院が発足
(昭和20年12月)

The hospital is transferred to the
remit of the Ministry of Health and
Welfare and is renamed the
National Setagaya Hospital and
the National Okura Hospital.



2002



国立小児病院・
国立大蔵病院を統合し、
国立成育医療センター開設
(平成14年3月)

The National Okura Hospital and
National Children's Hospital are
merged, forming the NCCHD.

研究所開設
(平成16年10月)
The Research Institute is
established.

2015

国立研究開発法人
国立成育医療研究センターに移行
(平成27年4月)

The NCCHD becomes a national
research and development
organization.

2022

成育こどもシンクタンク発足
(令和4年4月)

Think Tank for Children and
Parents is aunched.



センター



歌手MISIAさんより 七夕飾りをご寄贈いただきました

7月1日から7日まで、MISIAさんとファンクラブの皆さんよりご寄贈いただいた七夕の笹飾りを、病院1階の総合案内エリアに設置しました。MISIAさんは長年当センターの「アイノカタチ基金」をご支援いただいております。今回の寄贈はその活動の一環です。MISIAさんの誕生日である7日の夜には、中庭に「天の川」をイメージしたイルミネーションとキャンドルも灯され、外に出られない患者さんやご家族にも七夕の雰囲気を感じていただけました。

臓器移植センター



ブラック・ジャックセミナー開催報告

7月19日(土)、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社と共同で「ブラック・ジャックセミナー」を開催しました。2015年から続く本イベントですが、今回定員40名に対し400名を超えるご応募がありました。当センターの医師指導のもと、小・中学生が腹部超音波検査や腹腔鏡手術、超音波メスや縫合などに挑戦。セミナー卒業生で現在医学部に在籍している方も参加し、体験談を語ってくれました。真剣に取り組んだ子どもたち全員に、最後は「未来の医師認定証」をお渡ししました。

センター



「成育の出張授業」をはじめました！

当センターでは、幼児から中学生までのお子さまと保護者の方を対象に「成育の出張授業」を始めました。性教育をはじめ、健全な次世代の育成につながるテーマについて、専門家が地域に出向いて授業を行います。例えば「ヒトのからだについて」「プライベートゾーンについて」など、年齢に応じた内容を分かりやすくお伝えします。ぜひお気軽にご活用ください。

成育の出張授業

<https://www.ncchd.go.jp/recruitment/gakusyu/visitinglectures.html>



医療連携室



地域医療連携懇親会開催のお知らせ

12月13日(土)に「第7回国立成育医療研究センター地域医療連携懇親会」を開催いたします。日頃から当センターとご協力いただいている医療連携登録医の先生方を対象に、当センター医師による講演と交流の場を設けます。第1部の講演では、次の演題を予定しています。

- ・「時代のニーズに応える無痛分娩と児への影響」
- ・「成育医療研究センターが取り組む小児性分化の臨床」

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

お問い合わせ先：医療連携室



ご意見・ご感想

『成育だより』へのご意見・ご感想、
また取り上げてほしいテーマがありましたら、
QRコードからぜひお気軽にお送りください。

広報誌「成育だより」
最新号に関するアンケート



女性の健康総合センター

オープンセミナーのお知らせ 「女性の健康をすすめる 叡智の集結から実践へ」



Integrated Center for Women's Health

12月6日(土)に「女性の健康総合センター」開所1周年と、「プレコンセプションケアセンター」10周年を記念した合同オープンセミナーを、日本橋ライフサイエンスハブにて開催します。女性の健康総合センターは、昨年の開所以来、妊娠・出産、更年期やこころのケアまで、幅広い分野で女性の健康を支える活動を行ってきました。セミナー第1部ではその1年間の取り組みと成果を分かりやすくご紹介します。第2部では2015年に日本で初めて開設したプレコンセプションケアセンター10年間の歩みや最新の取り組みを紹介。さらに海外の事例も交え、今後の展望についてお伝えします。参加費は無料で、会場とオンラインのハイブリッド形式で開催します。女性の健康や未来に関心のある方なら、どなたでもご参加いただけます。

[プログラム]

第1部：「女性の健康総合センター1年～実績とこれからの課題」第2部：「プレコンを当たり前の世の中にするために」

詳細はWEBサイトで11月上旬にご案内しますので、ぜひご覧ください。

「大事なものを抱きしめる」「自分にとってかけがえのないものを守る」「慈愛」といったイメージを直感的にドローイングしました。これを見る人にとって、自分自身の中にある何かふんわりとした優しい気持ちを再確認してもらえたら嬉しいなと思っています。

表紙の絵について

当センターでは、さまざまな個性を持った方々との共生を目指して、表紙イラストに障がいのあるアーティストのイラストを採用しています。思わずクスッと笑ってしまう作品、目を見張るような作品など、魅力あふれる作品をご紹介します。2025秋号は、エイブルアート・カンパニー所属、Seiyamizuさんの作品です。

描いた人：
Seiyamizu
1987年生まれ



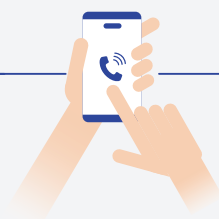
アイノカタチ基金

ご寄付について

子どもたちの命を守るための医療機器の整備や、療養環境の改善のためにご寄付をいただくとありがたく存じます。当センターへの寄付は税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。詳細はHPをご覧ください。



<https://www.ncchd.go.jp/donation/>



医療関係者の方

国立成育医療研究センター お問い合わせ

医療連携室

直通 03-5494-5486 (月～金8:30-16:30)

救急センター

代表 03-3416-0181 (24h受付)

NICU

母体搬送

PICU

代表 03-5494-7120 (内線7070) (24h受付)

患者さん・ご家族

予約センター

病院 03-5494-7300 (月～金9:00-17:00)

産科 03-5494-8141 (月～金9:00-17:00)



国立研究開発法人
国立成育医療研究センター
National Center for Child Health and Development